

バスを利用することはできますか。

【Model F、C2/CK2、C/CK、A/AK/AM】

WHILL は電動車いすの規格に基づいて設計された製品ではありますが、バスの仕様や装備によってはご利用が困難な場合がございます。また、WHILL での公共バス利用の可否につきましては、ご利用を検討されているバス事業者に、事前に確認されることをお勧めします。

バスと WHILL の仕様の違いから、ご利用の際にリスクを伴う事がございますので、下記をよくお読みいただき、難しいと感じた場合にはご利用を控えていただきますようお願いいたします。

バスの乗務員は WHILL の取り扱いに不慣れな場合がありますので、添付の取り扱いマニュアルを印刷して、乗務員の方へお見せいただき、WHILL の取り扱いをご理解いただくことが大事です。

以上のことをご理解いただき、是非、安全に公共バスをご利用ください。

【Model S/R】

バスでの利用はできません。回転半径が大きく、直角の通路を通過する性能が C2 や F と比較すると低いためバスの乗降には適しておりません。

<バスへの乗降>

○ WHILL は介助者が後ろから押して動かすことはできません。利用者様ご自身で WHILL を操作してバスへの乗車をお願いします。

※ バス乗務員が乗降時に支援する場合は後方からバックサポート（背もたれ）に手を添え、万一の場合はバックサポートを（乗車時）押して/（降車時）引いて安定のための補助を行ってください

○ 前進乗車、前進降車をお願いします。後進で乗降を行うと、進行方向の路面を正しく視認できず、スロープから落下する恐れがあ

ります。

- バスのスロープをバスから車道に直接降ろした場合、スロープの登坂角度は 10° 以上となることがあります。WHILL の各モデルの最大登坂角度は 10° であるため、バックサポートに背中を付けた状態で前進乗車を行うと後方に転倒する恐れがあります。
 - ・ 乗車する際には、前傾姿勢になることで転倒の危険は低減できます。
 - ・ 降車する際は、後傾姿勢になると着地の時の衝撃が緩和されます。安全な乗降が難しいと感じる場合はご利用を控えていただきますようお願いいたします。
- 乗車時の速度は、1 もしくは 2 に設定してください。登坂速度が速いとスロープを登り切った後に、車内の備品への衝突や、他の乗客への接触事故が発生する恐れがあります。
- 雨の日はバスのスロープが滑って乗車ができないこともありますので、雨天時のバスのご利用は十分注意してください。

**乗車時は前傾
姿勢に！**



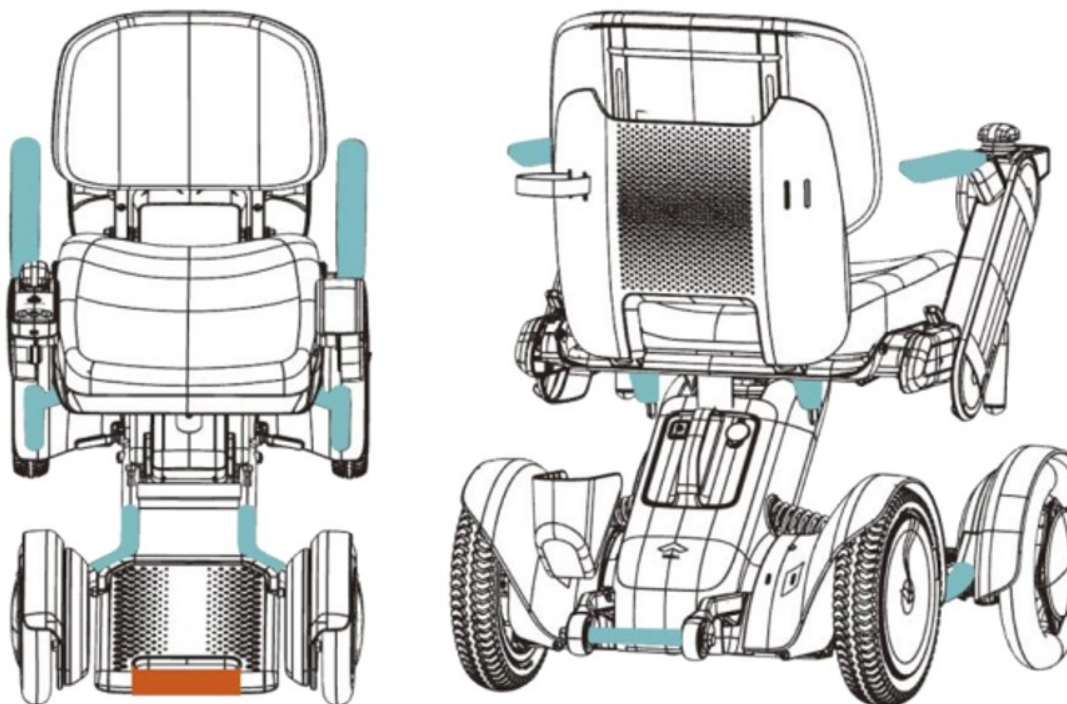
**降車時は後傾
姿勢に！**



<車内での固定>

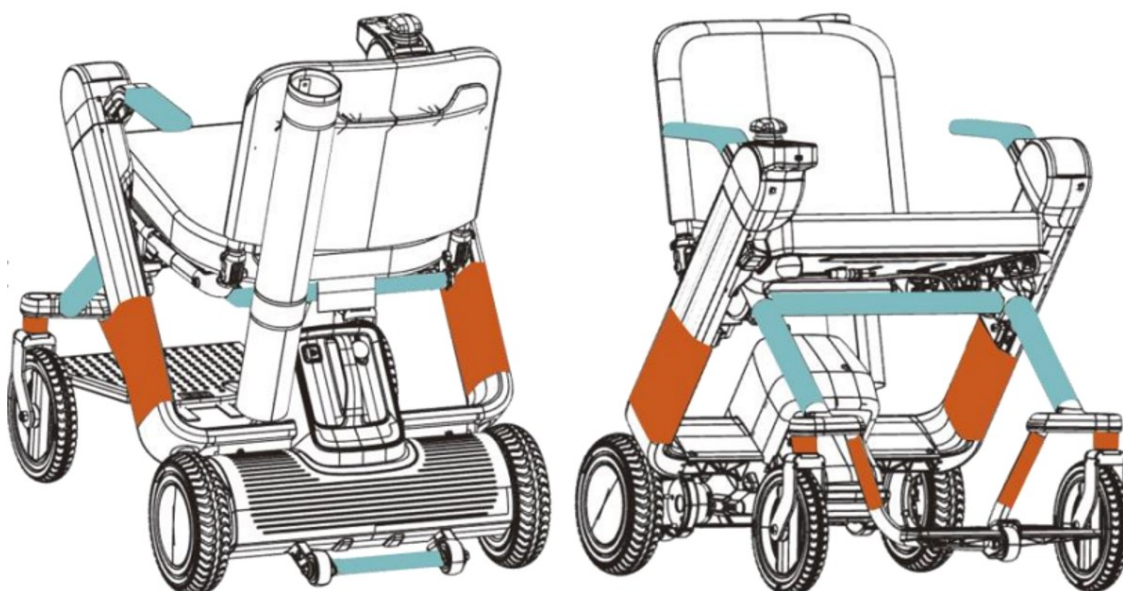
- バス車内では固定バンドによる固定をされることをお勧めします。
- バスの不意の急ハンドルや急ブレーキによって WHILL が動いてしまい、ご利用者様自身、または周囲の乗客の怪我の原因になることがあります。乗務員の指示に従って必要な固定を行ってください。
- バスの運転中は必ず電源を落とし、誤ってコントローラーに触っても動作しないようにしてください。
- 乗務員に固定位置を明示するために、固定位置に明色や反射材のテープを貼付することをお勧めします。

■ Model C2



- フックを掛けて良い場所
- フックを掛けてはいけない場所

■ Model F



- フックを掛けて良い場所
- フックを掛けてはいけない場所